

クロツグミは歌う



佐藤 弘

かつてオジロビタキの稿で、2014年に新潟市で鳥類標識調査の全国集会在催されたこと述べた。その際、標識協会事務局がスウェーデンの鳥類学者スヴェンソン博士に講演を依頼したところ、了承されて来日し私達の調査地を視察に来た。講演はもちろん興味深かったが、伝え聞いた雑談も面白かった。

博士は三船敏郎のファンで三船の主演作品のほとんどをDVDで見たという。「世界の三船」という称賛は大袈裟ではないようだ。中で印象に残っているのが椿三十郎であり、椿満開の場面の効果音に入れられたウグイスの囀りという。北欧の高名な鳥類学者がウグイスに感銘したとは何だか嬉しくなってくる。

日本三鳴鳥とされるのはウグイス・オオルリ・コマドリであることは前に述べた。だが、朗朗と歌う歌い手となるとなぜかツグミ類だけのように思う。顔ぶれは本種をはじめクロウタドリ・ガビチョウのほか、その名もウタツグミがいる。しかし、何かの情報発信は地鳴きや囀りの長さで事足りるのに、延々と歌い続けることにどんな意味があるのか。嵐が静まったとたんの一斉に鳴き出す「浮かれ歌」の例もあると述べた、日本野鳥の会創始者中西悟堂なら「歌曲熱唱型」とでも呼ぶかもしれない。

ガビを飼うとどうなるか前に述べた。どんなに耳に心地よい音でも、それが大音量となれば騒音でしかないからご近所まで迷惑する。クロツもガビに負けず劣らず大声の持ち主で、寝入りたい時や考えに集中したい時などは100m以内に近寄ってほしくないやつだ。それなのに、遠い昔のことだが野中の一軒家ならまだしも東京の下町神田小川町の静かな裏長屋で、たぶんご隠居の道楽で飼われていた例があった。当然だがクロツが2階の軒下で歌っていたのは1日だけで、あとは楽屋へ引っこめられたらしい。やはり野に置け月見草…かな？

さて、この連載を2回も穴をあけてしまい恐縮しております。この3月上旬に自宅で倒れて危篤になり4ヶ月入院しておりました。床に頭を打たないように、とっさに体をひねって壁にもたれたところで気を失い、目覚めたのが1週間後。主治医は胆のう炎から全身に菌が回り、どこから手を着けたものか判断に迷う程だったと説明してくれました。有難いことに後遺症は一切なく、あせらずに落ちた体力・筋力の快復を待つ毎日です。

なんだか、持ち場に戻ったような心境です。またトリビアルなお話を続けさせていただきますので、お付き合い願います。

実りの秋です。「馬肥ゆる秋」とならないよう注意しながら季節の味覚を楽しみたいと思います。今後とも変わらぬご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

常務取締役 小林 淳

2017年(平成29年)に「北前船」が文化庁より日本遺産に認定されました。東京一極集中の是正と地方の人口減少に歯止めをかけるという、いわゆる「地方創生」が政策課題として取り上げられてから久しくなりますが、明治維新を更に遡る江戸時代に、寄港地をつなぎ、総合商社の役割を果たしながら、地域間交流、文化交流を深めていった「北前船」にそのヒントが隠れている気がします。

東日本大震災では、被災した太平洋側港湾の代替港としての役割を担ったことは記憶に新しいところです。現在、国際航路は、韓国航路と中国航路の二航路(東南アジア航路とロシア航路は休止中)ですが、昨年の11月に中国が、新潟県産米の輸入停止を7年ぶりに解除したことから、輸出に弾みがついています。次は日本酒の番だと期待が膨らみます。

今では信じられませんが、明治時代の一時期(通算15年間)新潟県は、人口が日本一でした。(ちなみに現在の新潟県の人口は224万人で、全国15番目です。)現在の新潟港は、中核国際港湾に指定され、国際海上コンテナ、LNGの拠点港として、本州日本海側最大のコンテナターミナルに成長しています。

このようにして新潟港は、海と川を数多くの船が行き交い、様々な物資が集積、流通する交易の場として発展してきます。今では信じられませんが、明治時代の一時期(通算15年間)新潟県は、人口が日本一でした。(ちなみに現在の新潟県の人口は224万人で、全国15番目です。)現在の新潟港は、中核国際港湾に指定され、国際海上コンテナ、LNGの拠点港として、本州日本海側最大のコンテナターミナルに成長しています。

秋空が高く、さわやかな季節となりました。皆様のところではいかががでしようか。さて、今年には新潟港が開港から150周年を迎え、様々なイベントが新潟市内で開催されています。学校で習った社会科の復習になりますが、1858年(安政5年)の日米修好通商条約により、函館、横浜、長崎、神戸とともに新潟が開港地に選ばれました。しかし新潟の開港は、港の水深不足と北越戊辰戦争の影響により遅れ、1869年(明治元年)によりやく開港に漕ぎつけました。ヨーロッパからは銃や家具、衣類などが輸入され、新潟港からは蚕の卵などが輸出されたそうです。

「温故知新」

お客様 元気通信 むけ



## ■【女子小学生と私】

技術営業部 坂井 将之

このタイトルを見た瞬間「こいつは変態か？」と疑われてしまいかねませんが、実は土日祝日を含めて週に3~4日程度、地域の2~6年生の女子小学生にバスケットボールを指導しています。4年生以下くらいまでは、素直で自由奔放で常にウロチョロ。特に試合中は走れば勝手にコケる。あっちでバタン！こっちでバタン！あっちで涙！こっちで涙！それを見ている保護者の応援は益々ヒートアップ！そんな親子達を見ていると実に微笑ましく思います。

一方、高学年になり反抗期に差し掛かった子供達には少々手こずる場面も増えてきます。反抗的な態度をとる子供も増え、叱って「力」で動かそうとしてもまず素直に動いてくれることはありません。しかし子供でも相手を尊重した声掛けをすると、結構頑張ってくれることが多く、そんな時はハイタッチをして、喜びを子供と共有できた！という充実感があります。

指導7年目、これからも女子小学生たちに元気をもらいながら、バスケットに携わっていきたいと思います。女子小学生バスケットはやめられまへん！



私の時間  
ペンリレー



生産部工務 笠原 瞭

## ■【我が家の猫】

私の家には猫が3匹います。去年の6月頃、会社の敷地内に子猫がいると言われ見に行き、かなり怖がっていたのを思い出します。

まさかこの猫が我が家で飼うことになるとは思いませんでしたが・・・

その猫を飼うことになり、名前は「もも」。(私はおチビと呼んでいます)。この猫はとにかく動くものが好き。虫が飛んでいるのにも目を光らせる困った猫。今までに蛇、ネズミ、鳥、トカゲ、虫を啜って家に持って来ます。すでに飼っている猫2匹に対して手をテーブルに置き足で蹴るという技で場所を奪う凶暴な一面もあり、見ている私からしたら飽きることのない面白いやつにしか見えませんが、やられる側の猫にとっては迷惑だと思います・・・

子猫から飼うのは初めてで、飼ってみるととにかく元気なのと、体が大きくなるのが早い。

猫は1年で人間の年齢でいうと13歳~18歳といわれているそうです。現場から帰ってくると、少し大きくなったかな?と思ったことが何度もあります。家に帰って猫と戯れることが私にとっての癒しです。このまま元気に長生きしてくれればいいなと思います。



## ルームメイトとお別れの秋



生産部 島貴 修一

毎年暖かくなるとやってきて居候し、秋になるといつの間にか去って行くルームメイトがいる。それはハエトリグモ。映画「ホビット」で巨大な蜘蛛がドワーフ達を襲う場面があるように、蜘蛛はその姿から嫌われ者扱いされることが多い。しかしハエトリグモはちょっと違う、いや全然違う。

特徴は愛嬌のある大きな目と蜘蛛にしては短い脚。大きな目で獲物を捜しながら短い脚で室内を動き回っているのを見ると、愛らしく感じてしまう。例えてみれば短足猫のマンチカンかな。室内で世代交代しているとは思えないので、たぶん玄関ドアを開けた時に素早く入ってくるのだろう。このルームメイト(名前はクモスケ)との同居中は、踏まないように細心の注意を払っている。

もう一つ、防犯上の理由で玄関外の照明は夜から朝で点けているが、問題は夏。多くの虫が集まってきて、常夜灯が誘蛾灯になってしまう。更に虫が集まれば当然ながら虫を獲物とする蜘蛛もやって来る。その結果玄関庇(ひさし)の裏側は蜘蛛の巣だらけになり、常に数匹の女郎蜘蛛が見下ろしている。しかも食糧が豊富で栄養をたっぷり取っているせいか、彼女達(蜘蛛の巣にいる女郎蜘蛛はメス)は大きいので、玄関は蜘蛛屋敷の入口のようだ。

蜘蛛が嫌いの人ならぞっとするかもしれないが、番犬ならぬ番蜘蛛としてそのままにしている。ドアにまで糸を張られたホウキで払ってしまうが、庇は蜘蛛に貸して見張り番をしてもらっている。大きな女郎蜘蛛が頭上で目を光らせていれば、泥棒もピッキングやサムターン回しがやりにくいかもしれない。そんな彼女達とも秋は別れの季節。台風が本州を縦断するように駆け抜けると、暴風雨で吹き飛ばされてしまい、それこそ「風と共に去りぬ」になってしまう。

## ◆ちょっと豆知識◆その41 「消費税考」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

拙稿が読まれる頃には、消費税が10%になっているはずですが。

大手酒販店の社長さんがある席でおっしゃっていましたが、小売りの現場は税率が上がった分だけ、すなわち1989年の0→3%の時は3%、1997年の3→5%の時は2%、2014年の5→8%の時は3%、きっちり売り上げが落ちた、とのことでした。

その流れで行けば、今回は8→10%ですから2%の売上ダウン、ということになるのでしょうか。

税率が変更となるこの時期、お客様から「9月中に品物納めてね」との確認連絡が頻繁に当社に参ります。以前から思っていたのですが、最終消費者は税率変更分がもろに財布から持ち出されますが、事業者は影響が無いのではないかと疑問について考えてみました。

識者への確認等を経て「私の考えは間違ってますでした」と言い切れる段階でない状況で本稿を載せますので、間違いがあればご指摘いただきたいと思ひます。

多くの方が理解していない節があるので、消費税の仕組みから話を始めます。

A社		販売>仕入	B社		販売>購入	消費者	
売上	5,000	※税率8% として	売上	10,000	←	支払総額	10,800
消費税①	400		消費税②	800		←	
			仕入れ	5,000			
			消費税①	400			
A社の納付税額			B社の納付税額				消費者の負担税額
① =	400		② - ① =	400			800

A社からB社が品物を仕入れて加工し、消費者に販売する商流を図示してみました。

A社は代金として5,000とそれに対応する消費税400をB社から受け取ります。A社は受け取った消費税を国に納めます。

B社は消費者から代金10,000とそれに対応する消費税800を受け取ります。この時B社が国に納める消費税額は800ではなく、仕入れに際し払った400と、消費者から受け取った800の差額400となります。A社の納付額400とB社の納付額400の合計が、消費者が負担した800となる点が重要です。すなわち、事業者の場合、消費税は消費者から預かったものが「通過していく」ものであって、手元に残ったり持ち出したりが発生しません。

上記において、A社がB社に8%の時点で販売し、B社が消費者に10%の時点で販売したとして考えてみて下さい。消費者の支払総額が11,000に、消費税②が1,000に、B社の納付額が600になります。B社の利益(売上-仕入れ)がいずれの場合でも5,000でかわらない点に注目しましょう。

一時的に手元のキャッシュは減りますが、手元に残る額は変わりません。

上記は単一の品物の仕入れ・販売についてでしたが、事業総体として、米を買って、ピンを買って、タンクを買って、酒を売る、という一連の活動についても同じことが言えると思うのですがいかがでしょう。

税率で一喜一憂せず、しっかり売上を上げていくことを考えようではありませんか。

“ちょっと一息”

“記念”

基幹事業サポート 山本知男 No.31

この間、私の所属する某吹奏楽団で創立40周年記念演奏会を開催致しました。私は今では一番の古株になっていて、今回の運営を任せられました。今回は記念演奏会と銘打ってOB、OGの皆さんに声掛けしたり、一般公募をやってみたりと、あの手この手で人集めして、またいつもお世話になっているエキストラの方々にも来ていただいて、合わせると総勢58名になっていました。普段は多くても3~40名ほどでやっている事から、今回はちょっと頑張ったかな、という感じです。そして記念という事もあって有名な作曲家にうちのバンドの為に委嘱曲を作曲して頂き初披露を行ったり、プロのトランペット奏者をお呼びして共演したりと、かなり派手に企画してみました。その代わりお金が掛り過ぎて、今まで貯めていた団貯金をほとんど使ってしまった。普段はここまで派手にやらず、団員他いろいろな知り合いからも「ちょっとやり過ぎじゃない、身のほどでやらなきゃ。」と忠告を頂きましたが、お客様の反応は今までに良くなくて「凄く良かった。これが吹奏楽の醍醐味だね。」等々かなりの好評を得て、また手ごたえもしっかり感じました。

じつは今回無理をしたのは、地域の吹奏楽界に当団の名前を刻んで強い印象を与えようと考えたからです。我々の地域は大都市新潟市のベッドタウン化していて、仕事やら買い物やらどうしても新潟市の方に人が流れて行ってしまいます。また吹奏楽も新潟市の団体の方に集まって行きます。当団に来る人達は子育てが一段落してちょっと余裕出来た人とか仕事も落ち着いてきた人とか、要は年配の方が多いです。

その人たちと楽しくやっても良いのですが、毎年順調に新人(と言っても中高年が多いけど)が入ってくるものでもなく、その内、皆が高齢化して行って10年もしたら自然消滅するのでは、と言った危惧もあります。なので、5年毎になるけど、団員の活性も含め、地域にも印象を付けて「頑張ってるよ。我々と楽しくやろうよ。」とアピールしないといけない、と思ったわけです。

いろいろと批判もありましたが、演奏会の評判は非常に良く、やりがい強く感じたものでした。一番良かったのは団員の気持ちが変わった事でした。初めは文句言ってた人達も観客の反応を見て感じたんだと思います。

去年と今年の練習態度が変わりました。出席率も良く、もっと上手くなるようにしている姿を感じます。もっともっと力を付けて、盛り上げる演奏会をやって、おいしい酒を呑む。これが一番の楽しみであり幸せを感じる時でもあります。